

科目名 (英)	導入教育 First Year Experience	年次	1	実務経験	担当	太田 亜貴子/安中 松太郎
		授業形態	講義			
		時間数	30			
学科・コース	ヘアメイク科	単位	2		開講区分	前期
					曜日・時間	
講師紹介	社会人経験豊富な職員が、就職活動に向けてコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	目的意識を高め、プロに必要なことが何か確認する。同じ目標を持った仲間との相互支援環境を作る					
到達目標	プロの職業人になるために必要な業界知識や流れを理解し、安心、安全な場を作る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C(2.0)、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■実技試験 □ 作品					
教科書				事前事後 学習と その内容	●スケジュール確認は毎回実施をします（メモを取る習慣作り） ●体調管理の徹底 →担任授業ではスケジュールの確認だけでなく、就職、学校行事、連絡事項など重要事項をお伝えします。体調管理を徹底して欠席しないように気を付けましょう。	
教材	手帳(スケジュールがわかるもの)・筆記用具					
特記事項	必要事項は必ずメモを取るように意識をする					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	美容のプロを目指す上で① -振り返りと個人目標設定-	オリエンテーションや導入教育を振り返り、目標を再確認する。 目標に向けてカリキュラムの必要性を明確化し、理解することができる。 ITリテラシー実施
2	美容のプロを目指す上で② -学校ルールの再確認と業界研究-	学校ルールを再確認し、スムーズに学校生活を送れるようにする。 業界研究について学び、将来の準備ができるようになる。
3	職業研究	ヘアメイクアップアーティストの仕事内容を理解する
4	業界研究①	ヘアメイクになる為の流れを理解し、方法を学ぶ
5	業界研究②	ヘアメイク事務所の調べ方を学び、業界の知識を深めることができる
6	現場実習について	現場実習の流れやルールを理解し、実習に必要な社会的マナー・主体性・コミュニケーション力を身に付けることができる
7	中間試験	入学してからを振り返り、学んだこと・今後身に付けていきたいことをまとめる
8	美容のプロを目指す上で③ -現場実習と今後の目標設定-	入学時の目標を振り返り、現時点での目標を再設定する 現場実習についての注意点を確認し、現場実習に臨む心構えが出来るようになる
9	プロの職業人を目指すにあたって①	プロの職業人を目指すにあたっての必要な知識を吸収する
10	プロの職業人を目指すにあたって②	プロの職業人を目指すにあたっての必要な知識を吸収する
11	夏休みにあたっての注意事項	長期休暇を過ごすにあたり、今後やるべきことを整理する コンテストについて
12	グループ学習（夏休み課題の振り返り）	グループ学習を通して、発表する力を身に付ける 職業理解を深めるために、体験学習の意図を理解し主体的に授業に参加する
13	プロの職業人を目指すにあたって③	プロの職業人を目指すにあたっての必要な知識を吸収する
14	業界研究③	ヘアメイク業界について、様々な視点から調べ、業界を理解する
15	定期試験	入学してからを振り返り、後期に向けやるべきことを整理する

科目名 (英)	プロフェッショナルへの道Ⅰ Career DevelopmentⅠ	年次	1	実務経験	担当	太田 亜貴子 安中 松太郎
		授業形態	講義			
		時間数	30			
学科・専攻	ヘアメイク科	単位	2	有	開講区分	前期
					曜日・時間	1組(金2) 2組(金1) 3組(金4) 4組(金3)
講師紹介	社会人経験豊富な職員が、就職活動に向けてコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	業界および職種について理解を深め、自分の目指す将来像を明確にする。プロになるために自己管理が出来るようになる。					
到達目標	プロの職業人になるために必要な業界知識や流れを理解し、ヘアメイクの分野に合わせたビジョンを組み立てることができる 目指すヘアメイク分野の業界を知り、方向性を見出すことができる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	Hand-book of Life Style			事前事後 学習と その内容	●スケジュール確認は毎回実施をします(メモを取る習慣作り) ●体調管理の徹底 →担任授業ではスケジュールの確認だけでなく、就職、学校行事、連絡事項など重要事項をお伝えします。体調管理を徹底して欠席しないように気を付けましょう。	
教材	Hand book of Life style スケジュール管理のための手帳					
特記事項	必要事項は必ずメモをとる(メモを取る習慣を身に着けよう)					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	美容のプロを目指す上で① -振り返りと個人目標設定-	オリエンテーションや導入教育を振り返り、目標を再確認する。 目標に向けてカリキュラムの必要性を明確化し、理解することができる。
2	美容のプロを目指す上で② -学校ルールの再確認と業界研究-	学校ルールを再確認し、スムーズに学校生活を送れるようにする。 業界研究について学び、将来の準備ができるようになる。
3	職業研究	ヘアメイクアップアーティストの仕事内容を理解する
4	業界研究①	ヘアメイクになる為の流れを理解し、方法を学ぶ
5	業界研究②	ヘアメイク事務所の調べ方を学び、業界の知識を深めることができる
6	現場実習について	現場実習の流れやルールを理解し、実習に必要な社会的マナー・主体性・コミュニケーション力を身に付けることができる
7	中間試験	入学してからを振り返り、学んだこと・今後身に付けていきたいことをまとめる
8	美容のプロを目指す上で③ -現場実習と今後の目標設定-	入学時の目標を振り返り、現時点での目標を再設定する 現場実習についての注意点を確認し、現場実習に臨む心構えが出来るようになる
9	プロの職業人を目指すにあたって①	プロの職業人を目指すにあたっての必要な知識を吸収する
10	プロの職業人を目指すにあたって②	プロの職業人を目指すにあたっての必要な知識を吸収する
11	夏休みにあたっての注意事項	長期休暇を過ごすにあたり、今後やるべきことを整理する コンテストについて
12	グループ学習(夏休み課題の振り返り)	グループ学習を通して、発表する力を身に付ける 職業理解を深めるために、体験学習の意図を理解し主体的に授業に参加する
13	プロの職業人を目指すにあたって③	プロの職業人を目指すにあたっての必要な知識を吸収する
14	業界研究③	ヘアメイク業界について、様々な視点から調べ、業界を理解する
15	定期試験	入学してからを振り返り、後期に向けやるべきことを整理する

科目名 (英)	アシスタントプログラム I Assistant program I	年次	1	実務経験	担当	佐藤直雅
		授業形態	講義			
		時間数	30			
学科・コース	ヘアメイク科	単位	2	有	開講区分 曜日・時間	前期 1組2組(月3・4)3組4組(月1・2)
講師紹介	ヘアメイク事務所ビーサイド代表。数多くの現場経験を持ち、また多くのヘアメイクを輩出していた講師が、最新の現場で必要とされるアシスタント業務を具体的に説明する					
目的 科目概要	在学中からプロの現場でアシスタント業務ができるよう応用までわかりやすレクチャーする					
到達目標	アシスタントワークの基本を理解できるようになる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ☐ 筆記試験 ☒ 実技試験 ☐ 作品					
教科書	JESCテキスト 他 資料			事前事後 学習と その内容		
教材	メイク道具一式					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	自己紹介(座学)	各自が夢の共有を行う
2	業界理解	ヘアメイク全般について(座学)
3	業界理解	広告業界について(座学)
4	業界理解	雑誌・出版業界について(座学)
5	お直し道具について	ヘアメイクデモンストレーション(座学)
6	アシスタントワーク	アシスタントの動き(ロールプレイ)(実技)
7	アシスタントワーク	現場でのネイル・ハンドマッサージについて(実技)
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 (英)	おもてなし Omotenashi	年次	1	実務経験	担当	石田智子
		授業形態	演習			
		時間数	30	有	開講区分	前期
学科・専攻	ヘアメイク科	単位	2		曜日・時間	1組(金1限)2組(金2限)3組(金3限)4組(金4限)
講師紹介	百貨店などの接客サービスの現場経験をもつ講師が、実体験を交えた講義を行う。個人技に近い「おもてなし」を自分自身で学び取るために、グループワークを取り入れた体験参加型の講義を行うので、毎授業積極的に参加すること。					
目的 科目概要	接客業に携わるうえで、自分と自分の仕事に自信を持ち、お客さまとのコミュニケーションが得意で、お客さまのさまざまな要求や課題、問題に対処して解決できる社会人基礎力に優れた「おもてなしのプロ」を目指す。					
到達目標	資格検定教本を通して「おもてなしの心」「型とスキル」を体系的に学び、「おもてなしマスター」資格を取得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C(2.0)、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書	おもてなしマスター資格検定教本		事前事後 学習と その内容	おもてなしのプロとしてふさわしい、笑顔、挨拶、姿勢、言葉づかいを常に意識すること		
教材						
特記事項	毎授業「教本」「筆記用具一式」を必ず持参すること。決められた座席に着席し、グループワーク等の際には速やかに席移動すること。					
授 業 計 画						
回数	授業テーマ		授業内容			
1	科目オリエンテーション		講師自己紹介 科目オリエンテーション(授業ルール、評価、資格検定試験についてなど)			
2	おもてなしとは何か・おもてなしの背景		日本におけるおもてなしの背景と事例紹介 グループワーク「おもてなし」とは何か			
3	おもてなしの心3つと基本となる型		教本におけるおもてなしの心3つの解説と5つの型			
4	型1 事前調査		事前調査の必要性 事前調査において「傾聴スキル」がなぜ必要かの解説とワーク			
5	型2 時間管理		時間管理とは何か グループワーク「待った感」を感じさせない工夫			
6	型3 環境設定		五感と季節を意識した、お客さまにとっての空間準備について考える			
7	中間試験		中間試験実施、終了後の解説解答から自身の課題を抽出する			
8	型4 場面演出		場面演出の目的とイベント演出、お客さまに演出内容をプレゼンテーションする グループワーク「わたしのオススメ」(プレゼンテーション)			
9	型5 変化対応①		アサーション4つのタイプの解説とセルフチェック			
10	型5 変化対応②		ポジティブシンキング、ストレスマネジメントについて グループワーク「ポジティブシンキング」			
11	5つのどの型にも有効な共通スキル①		共通スキル(なぜなぜシンキング、KJ法)とは			
12	5つのどの型にも有効な共通スキル②		共通スキル(エゴグラム、コーチング)とは			
13	振り返り・まとめ		おもてなしマスター検定試験に合格するための、最終的な準備			
14	過去問題及び記述問題対策		過去問題に取り組み自己採点する、課題を抽出する 記述問題対策に取り組む			
15	定期試験(おもてなしマスター検定試験)		おもてなしマスター検定試験に合格する			

科目名 (英)	メイクアップⅠ	年次	1	実務経験	担当	古藤 真央
		授業形態	演習			
学科・専攻	make upⅠ	時間数	60	有	開講区分	前期
	ヘアメイク科	単位	4		曜日・時間	1組(木3.4限)2組(火3.4限)3組(火1.2限)4組(木1.2限)
講師紹介	原宿にあるベルエポック美容専門学校卒。ELCジャパン(株)M.A.Cに13年勤務。リテールマネージャーとして、店舗運営や部下育成に従事。					
目的 科目概要	メイクを基礎から学びながら、さまざまなメイクを知り、モデルに施せる。デパートコスメなどの教材にも触れる。					
到達目標	メイクにおいての初歩的なところから、業界人としての心得も学び、作品を作れるようになる。創造力を豊かにし、メイクで自分を表現できるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書	BASIC MAKEUP			事前事後 学習と その内容	メイクルック画像をたくさん検索したり、目を肥やすために色々な作品を見て自分のものにする努力をする。	
教材	つけまつげなど用意してもらうことあり					
特記事項	実技の授業なので、エプロンと名札着用で臨む。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	自己紹介／自分の好きなメイクスタイルプレゼン	好きなメイクジャンルの写真を発表、自己紹介。メイクするときの心得、姿勢。プレススキンケアのやり方。
2	ベースメイク、ツヤとマット	ベースメイクをキレイに施す手順、手つき、ブラシ、スポンジのツール別使用方法。
3	アイシャドウ縦、横グラデテク／アイブロウシェイプ	縦グラデ、横グラデのやり方。角度あり、平行、困りアイブロウの描き方。
4	ドラマティックなアイメイク	大胆なアイメイク。アイライナー使い。質感によるブラシの選び方やグラデ入れるコツ。
5	ブルーメイク	ブルーを使ったフルメイク。ブルーグラデ、カラーアイブロウの基本。
6	トータルデパコスフルメイク	テーマを決めて、モデルに合った入れ方やカラーの見極め。中間に向けてのメイクプレゼン練習。
7	中間試験	1～6週目の確認
8	メイクシートを描いてみる、セルフメイク	自由に創作メイク。同系色、反対色などの色が持つ力を知る。色鉛筆使用(各自用意)
9	ピグメント使用メイク	粉末状のアイテム、大粒ラメ、スパンコールを使用した創作メイク。
10	つけまつげ、ラインストーン、韓国コスメ使用メイク	つけまつげをモデルに付ける。ストーンやシール、ラメでデコレーション華やか創作メイク。
11	ブラックリップ、ブラックシャドウ、モノトーンメイク	明るめの肌、黒々しいリップやアイメイクでゴスロリ風メイク。
12	模倣メイク①	講師が用意した画像をもとにメイク。出来栄をメイクシートプレゼン。
13	模倣メイク②	自分たちで画像を用意。自分らしさも取り入れながら施す。メイクシートプレゼン。
14	模擬試験	定期試験で施術するメイクを考え、実際に行う。フィードバック。プレゼン。
15	定期試験	前期内容の確認

科目名 (英)	ヘアスタイリングⅠ Hair Styling 1	年次	1	実務経験	担当	小野寺 舞
		授業形態	演習			
		時間数	60			
学科・専攻	ヘアメイク科	単位	4	有	開講区分	前期
					曜日・時間	1組(木1.2限)2組(木3.4限)3組(水3.4限)4組(木1.2限)
講師紹介	ヘアメイクアーティストとして様々な現場を経験し、現在は事務所の代表を務めながら現役としても自身の技術を雑誌で紹介する等、活動しております。スタイルを作る方法は様々なので、皆さんそれぞれに合った学び方で技術を習得できるようお伝えします。					
目的 科目概要	目的:ヘアアレンジを行う為に必要な基礎技術、道具の使い方を学ぶ。概要:この科ではウィッグを使い実際に自身の仕上がりを確認することにより、回数を重ね基礎技術を身に付ける。全てのアレンジを行う上で欠かせない共通する技術である。					
到達目標	ヘアアレンジの基礎テクニックを習得し、さまざまなアレンジに応用することが出来る。技術者としてのマナー、心構えを習得する。専門的な知識を学び、指定された技術を行う事が出来る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書	プリント			事前事後 学習と その内容	実習後、次の授業までに復習し、より確実に身に付ける事が望ましい。	
教材	ヘア道具一式					
特記事項	実技がメインとなる授業の為、遅刻欠席は出来るだけせず、毎授業において手順等の内容は必ずメモを取り復習すること。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	道具の使い方・ブラッシング・スライス・ゴムの結び方	授業での今後の流れを把握し、目標を立てる。道具の使い方や名称を覚え、扱いに慣れる。
2	復習・ピン打ち・ブロッキング・ブロー	前回行った技術を復習(スライス・ゴム)し習得する。新たに学んだ技術のやり方を覚え習得に繋げる。
3	アップスタイル・コテ巻き・ブロー	前回行った技術を復習(ピン打ち・ブロッキング)し習得する。基礎技術を応用し、簡単なアップスタイル(お団子)の技術を身に付ける。
4	復習・編み込み①・ツイスト・ブロー	前回までに行った技術を復習(コテ巻き・ピン打ち・ゴム)し、習得する。新たに学んだ技術のやり方を覚え、習得に繋げる。
5	復習・編み込み②・コテ巻き・ブロー	前回行った技術を復習(編み込み)し、応用の編み方を覚え、習得に繋げる。
6	1～5回までの復習・試験対策	前回までの技術を復習し、苦手な箇所を確認する。中間試験に向けて技術向上に繋げる。
7	中間試験	7回目までの技術習得を確認する。フィードバックから今後の目標を立てる。
8	ホットカーラー・抱き合わせ	夜会巻きベース作りを学ぶ。すき毛の扱いを覚える。
9	復習・夜会巻き①	前回行った技術を復習(ホットカーラー)し、習得する。新たに学んだ夜会巻きの基礎技術を覚え、習得に繋げる。
10	復習・夜会巻き②	前回までに行った技術を復習し、夜会巻きを完成させ、技術の習得に繋げる。
11	ハーフアップスタイル・ダウンスタイル	基礎技術を生かし、ハーフアップスタイル、ダウンスタイルを仕上げる。
12	サイドアップスタイル・編み下しスタイル	基礎技術を生かし、サイドアップスタイル・編み下しスタイルを仕上げる。
13	アップスタイル	基礎技術を生かし、アップスタイルを仕上げる。
14	復習・夜会巻き④・試験対策	前回までの技術を復習し、苦手な箇所を確認する。定期試験に向け技術向上、スピードアップに繋げる。
15	定期試験	14回までの技術習得度を確認する。フィードバックから後期の目標を立てる。

科目名 (英)	ネイルケア & アート nail care & nail art	年次	1	実務経験	担当	石澤 美沙
		授業形態	演習			
		時間数	60			
学科・専攻	ヘアメイク科	単位	4	有	開講区分	前期
					曜日・時間	1組(水3.4限)2組(水1.2限)3組(木1.2限)4組(木3.4限)
講師紹介	トータルビューティーサロンにて、メイクアップ、ネイル、エステティック、アイラッシュを担当。技術、販売など接客に加えてスタッフの育成に貢献してきたのち、フリーランスのビューティシャンとして顧客へのサービスを提供する傍ら、専門学校において12年間の講師経験をもつ教員が、ヘアメイクを目指すために必要な基礎的専門知識、技術を習得するための授業を行う					
目的 科目概要	目的:7/16(日)のJNECネイリスト技能検定試験3級に合格する 科目概要:衛生的かつ効率的に施術するためのテーブルセッティング、各種道具の扱い方を覚えたのち、2人1組での相モデルの体制で施術者、モデルの観点からネイルケア、ポリッシュカラーリング、フラットアートを学ぶ。					
到達目標	ヘアメイクに必要なネイルの基礎を身につける					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品 ■ 提出課題					
教科書	JNAテクニカルシステムベーシック	事前事後 学習と その内容	技術においては知人・家族などへモデル協力を積極的に依頼し、可能な限り反復練習をすることが望ましい。また、デモンストレーションの際にはテキストにはない要点の説明や注意事項を交えて行うため、メモを取り、事後学習に役立てて欲しい。			
教材	ネイル教材一式/ はさみ/ タブレット端末					
特記事項	欠席、遅刻がないよう自己管理を徹底するとともに、学生同士の道具の貸し借りは一切行わず、忘れ物は減点対象とする					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	教材確認/テーブルセッティング/ファイリング/ネイル理論	衛生的・効率的に作業するためのテーブルセッティングを覚える ファイリング～色々なカットスタイルを覚える ネイルの歴史/技術体系
2	ネイル理論/ファイリング	爪の構造と働き/ネイルの皮膚科学/ネイルケアの手順について学ぶ 道具の正しい持ち方、動かし方を習得し、10本揃ったファイリングが出来るようになる
3	キューティクルクリーン	プッシュアップ、バックとキューティクルニッパーの扱いが出来るようになる
4	ネイルケア	キューティクルクリーンの苦手を克服する ネイルケアの流れを把握する
5	ネイル理論/ネイルケア	ファイリング～ニッパーまで、ケアを通して出来るようになる 爪や皮膚の病気とトラブル/消毒法
6	カラーリングとポリッシュオフ/トールペイント	カラーリング及びポリッシュオフの手順とポイントを覚える ブラシワーク及びアクリル絵の具を使ったフラットアートの基本形を習得する
7	中間試験(筆記)/検定概要説明	筆記試験 検定について
8	カラーリング & 検定対策アート ※課題提出	美しいカラーリングが出来るようになる カラーリング & オフの復習 検定規定アートが出来るようになる
9	ケアカラーアート	ケアカラーアート(相モデル)
10	ケアカラータイムトライアルⅠ/筆記対策	アートを含めたカラーリングをタイムを意識して仕上げられるようになる 筆記模擬試験 ※検定用シール貼り
11	ケアカラータイムトライアルⅡ/筆記対策	アートを含めたカラーリング をタイムを意識して仕上げられるようになる 筆記模擬試験 ※検定用シール貼り
12	デザインカラーリング	グラデーション/マーブル/フレンチ
13	和柄/ブライダルネイル	和装/ブライダルシーンに似合わせたネイルを提案できるようになる
14	定期試験仕込み	期末試験に向けた準備
15	期末試験	作品制作

科目名 (英)	着付く〈初伝〉〈中伝〉 Kimono Dressshing	年次	1	実務経験	担当	岡野暢子 大原洋子
		授業形態	演習			
		時間数	60			
学科・専攻	ヘアメイク科	単位	4	有	開講区分 曜日・時間	前期 1組(火3.4限)2組(木1.2限)3組(木3.4限)4組(火1.2限)
講師紹介	長年和装の着付技術の指導にあたり、自らも和装ブライダル等の現場を経験してきた山野流着装 奥伝師範講師より、日本の誇れる文化である着物の冠婚葬祭での基礎知識をわかりやすく解説し、伝統を継承しながらも現代のニーズに応えられる上質の和装着付の技術をお伝えします。					
目的 科目概要	目的:器具等を使用しないどのような現場でも通用する着付技術を学ぶ。山野流着装〈初伝〉〈中伝〉資格取得を目標とする。 概要:前半では着物に親しみ浴衣から小紋までを一人で着る着付の基礎を学び、後半ではミスの第一礼装の振袖、ミセスの第一礼装の留袖の知識と格式にあった着付技術を学ぶ。					
到達目標	〈初伝〉 ・1人で着る着付:小紋の着付と名古屋帯のお太鼓結び ・着物の本だたみと長じゅばんののたたみ方 〈中伝〉 ・お客様の着付:ミセスの第一礼装 ・黒留袖の着付と袋帯で結ぶ二重太鼓の帯結び ・着物の本だたみ					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書	一般財団法人国際美容協会発行 着物着つけ教本			事前事後 学習と その内容	着物に関してはほとんどの方が初めて見聞きするものが多いとお思います。 事前に教科書・インターネット等で夏の浴衣やこれから迎える成人式の振袖を調べてイメージしてみましょう。 事後は教科書を復習し着物の名称を正しく覚えましょう。	
教材	各自指定された教材と学校貸出教材を使用					
特記事項	資格取得を目標とする科目により全日出席してください。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	浴衣の歴史・知識の説明	着物の名称を覚える 下着・紐・小物の用い方を覚える 着付前の準備の仕方 浴衣の着付の展示同時実習で行う。
2	浴衣の着付と帯結び	実習 着付前の準備の仕方の復習 浴衣の着付と帯結びまでを行う。
3	小紋と名古屋帯の知識	実習 着付前の準備 足袋・下着・タオル・肌着の着付まで各自行う。 展示同時実習 長襦袢の着付としまう時のたたみ方まで学ぶ。
4	名古屋帯・小紋の準備の仕方・小紋の着付	実習 準備の仕方 下着～長襦袢の着付まで各自行う。 展示同時実習 小紋の着付(伊達締めまで)を学ぶ。
5	小紋の着付と帯結び	実習 準備の仕方から長襦袢・小紋の着付(伊達締めまで)を各自行う。 展示同時実習 名古屋帯の一重太鼓 お太鼓枕を背にあげるところまでを学ぶ。
6	小紋の着付と名古屋帯で結ぶ一重太鼓の帯結び	実習 準備の仕方から小紋の着付、お太鼓枕を背にあげるところまで各自行う。 展示同時実習 名古屋帯の一重太鼓の帯結び帯締め・帯揚げの整え方を学ぶ。
7	着付総仕上げ 小紋の着付と名古屋帯の一重太鼓の帯結び	実習 小紋の着付と名古屋帯で結ぶ一重太鼓の帯結びを仕上げる 長襦袢と着物の本だたみ
8	中間試験 初伝資格試験	実技試験 小紋の着付と名古屋帯で結ぶ一重太鼓の帯結びを帯締め・帯揚げまで仕上げる。
9	ミスの第一礼装・振袖の知識と着付のポイント	ミスの第一礼装・振袖についての知識を覚える 展示同時実習 体型補正～長襦袢の着付～振袖の着付と本だたみを学ぶ。 2人1組相モデル
10	振袖の着付と袋帯使用の二枚扇の帯結び	実習 体型補正から長襦袢の着付、振袖の着付まで各自行う。 展示同時実習 袋帯使用の二枚扇を学ぶ。2人1組相モデル
11	振袖の着付と袋帯使用の二枚扇の帯結び	実習 体型補正から長襦袢の着付、振袖の着付まで各自行う。 展示同時実習 袋帯使用の二枚扇を学ぶ。2人1組相モデル
12	ミセスの第一礼装・留袖の知識と着付のポイント	ミセスの第一礼装・留袖についての知識を覚える 展示同時実習 黒留袖の着付(伊達締めまで)と袋帯使用の二重太鼓の帯結びを学ぶ。 二人一組相モデル
13	留袖の着付と袋帯使用の二重太鼓の帯結び	展示同時実習 黒留袖の着付(伊達締めまで)と袋帯使用の二重太鼓の帯結びを学ぶ。 二人一組相モデル
14	着付総仕上げ 留袖の着付と袋帯使用の二重太鼓の帯結び	実習 ミセスの第一礼装・黒留袖の着付と二重太鼓 礼装用の帯あげと帯じめの整え方を学ぶ。2人1組交代で実習
15	定期試験 中伝資格試験	実技試験:お客様の着付け(第一礼装) 黒留袖の着付と袋帯使用の二重太鼓を仕上げる 2人1組相モデル

科目名 (英)	デザイントレーニング Design Training	年次	1	実務経験	担当	福島・高岸・秋本
		授業形態	演習			
		時間数	60			
学科・専攻	ヘアメイク科	単位	4	有	開講区分 曜日・時間	前期 1組(火1.2限)2組(月1.2限)3組(月3.4限)4組(火3.4限)
講師紹介	美容業界で23年以上関わってきました。CMや舞台、雑誌のヘアメイクなど、お客様のキレイの基準向上に取り組んでいる。セミナーや教育など様々な現場で美の提供をしながら活動している教員が、美容のスペシャリストを育成する為、美容知識、技術、経験の基礎と応用を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	目的:メイクアップに関するデザインの幅を学ぶ事。さらにメイクアップの基礎的な技術の向上を目指す。 デザインの基礎となるイラストや色・形・質感について学ぶ。					
到達目標	様々なデザインを学び、オリジナルなメイクアップデザインを仕上げるができる フェイスチャートを描くことができ、作品撮影も行う					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書	Make up foundation 1	事前事後 学習と その内容	講義、演習がメインとなる授業となる為遅刻欠席は出来るだけせず、復習をしっかりと授業に臨んで欲しい。 美容業界は流行の流れが速い為、常に雑誌やネットで情報を調べて予習しておく事。演習後は技術の復習をし、より確実に身に着ける事が望ましい。			
教材	学校指定のメイクアップ教材					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション・美容業界・デザインについて お互いの顔を触れてみる	授業について 美容業界について・デザインの世界について タッチアップ実習
2	フェイスチャートの描き方について メイクアップデザイン セルフメイクアップ	メイクアップのデザインを学び、フェイスチャートを描いてみる セルフメイクアップアドバイス
3	スキンケア～ベースメイク①	スキンケア～ファンデーション～コンシーラー～フェイスパウダーまでの 手順とやり方を覚えメイクアップすることが出来るようになる
4	スキンケア～ベースメイク②	スキンケア～ファンデーション～コンシーラー～フェイスパウダーまでの 手順とやり方を覚えメイクアップすることが出来るようになる
5	ベースメイク② アイブロウメイク① アイブロウイラスト	ベースメイク～アイブロウテクニック アイブロウを学びメイクアップすることが出来るようになる
6	アイブロウメイクアップ② アイブロウイラスト	ベースメイク～アイブロウテクニック アイブロウを学びメイクアップすることが出来るようになる
7	中間試験	スキンケア～ベースメイク・アイブロウメイク 30分 フェイスチャート アイブロウイラストテスト
8	ファッション～アートメイク	コレクション動画を見てファッション～アートなデザインメイクを学ぶことができる
9	リップテクニック② チークテクニック①	前回の復習とチークテクニック チークの入れ方、種類、手順とやり方を覚え、メイクアップすることが出来るようになる
10	アイメイクデザイン①	アイメイクのデザインをフェイスチャートに描いてメイクアップすることができる
11	アイメイクデザイン②	アイメイクのデザインをフェイスチャートに描いてメイクアップすることができる
12	リップデザイン①	リップのデザインを考えフェイスチャートに描いてメイクアップすることができる
13	オリジナルデザインメイク	オリジナルデザインのメイクアップを仕上げることができる
14	撮影準備	次回に向けて撮影のフェイスチャート作成とヘアメイク練習を行う
15	定期試験 作品撮影	相モデルで作品撮影を行う オリジナルメイクアップ作品

科目名 (英)	メイクアップ総論 I General Make up I	年次	1	実務経験	担当	大和田 一樹
		授業形態	演習			
		時間数	60			
学科・専攻	ヘアメイク科	単位	4	有	開講区分 曜日・時間	前期 1組(月1.2限)2組(水3.4限)3組(水1.2限)4組(月3.4限)
講師紹介	メイクアップアーティストとしてスチール、ショーのメイクアップ、またメイクアップディレクターとして化粧品の開発・プロデュース・メイクセミナーの講師、自らTV出演など化粧品とメイクアップに関する様々な業務を歴任してきました。ここではメイクアップに必要な専門的な知識と技術の基礎を習得する授業を行います。					
目的 科目概要	目的:メイクアップに関するマナー、専門知識、ナチュラルメイクの基礎的な技術を学ぶ。 科目概要:メイク基礎を学びJESKメイクアップアーティスト検定に合格できるようになる。					
到達目標	正しいメイクアップのマナーとセッティングの仕方を習得する 正しい化粧品の使用方法を理解し、限られた時間内でナチュラルメイクを仕上げることができる。 パーツごとにナチュラルメイクの正しい技術を習得することができる。 バランスの良いナチュラルメイクを仕上げることができる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ☐ 筆記試験 ☒ 実技試験 ☐ 作品 ☐ 提出課題					
教科書	Make up foundation 1	事前事後 学習と その内容	動画視聴しますので必ずipadを準備して下さい。また、メイクアップは細かいプロセスが多いので、毎回必ずノートを取って欲しいです。			
教材	学校指定のメイクアップ教材					
特記事項	7回目と14回目の授業時に課題を提出をしていただきます。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	マナー・セッティング・スキンケア	正しいセッティングの仕方を習得する メイクアップの様々なマナーを理解する スキンケアの手順を理解する
2	前回の復習/ベースメイク	セッティング～マナーの確認、スキンケア復習。正しいセッティングの仕方を習得する スキンケアの手順を習得する。 ベースメイクの種類と特長、作り方を理解する。
3	前回の復習/アイブロウ	スキンケア～ベースメイク復習。スキンケアの手順を熟練する。 ベースメイクの作り方を習得する。 アイブロウアイテムの種類と特長、描き方を理解する。
4	前回の復習/アイメイク	事前にベースメイクを作っておく。アイブロウ復習。ブラシを使ったアイシャドウの付け方、グラデーションの出し方、アイラインの引き方、ビューラーの使い方、マスカラの付け方を学ぶ。
5	前回の復習/リップ・チーク	事前にベースメイクを作っておく。アイブロウおよびアイメイク復習。アイメイクの仕方を習得する。 リップラインの描き方を理解する。 チークの付け方を学ぶ。
6	1～5回まで授業の振り返りと中間試験トレーニング	1～5回目までの総復習。時間に入ることと完成度のバランスを上げることを目指す。
7	中間試験	フルメイク(35分)メイクアップの正しいマナー・セッティングを習得する。 フルメイクを時間内(35分)に仕上げるができる。 各パーツを正しく仕上げるができる。
8	フルメイク	フルメイク(35分)メイクアップの正しいマナー・セッティングを習得する。 フルメイクを時間内(35分)に仕上げるができる。 各パーツを正しく仕上げることができる。
9	ゴールデンプロポーションとシェーディング	フェイスプロポーションを計測し顔のパーツの配置の違いを理解する。顔の黄金比を知り、美しいパーツ配置のバランスを理解する。ハイライトとシャドーによるベースメイクの立体感の付け方を学ぶ。
10	前回の復習/アイブロウの形を変えて描く	シェーディングを含めたベースメイク。過不足無い自然な立体感のあるシェーディングを習得する。自然に長く・短く、太く・細くするアイブロウの描き方を理解する。
11	JESKメイクアップ検定対策	JESKメイクアップ検定受験内容の説明・セッティング、身だしなみの確認・各パーツの仕上げ方 規定時間30分フルメイクの感覚を知る。
12	JESKメイクアップ検定対策	30分フルメイクの時間に入るように各パーツごとの時間配分を身につける。 筆記対策として過去問題を解いて知識を習得する。
13	JESKメイクアップ検定対策	30分フルメイクの時間に入るように各パーツごとの時間配分を身につける。 筆記対策として過去問題を解いて知識を習得する。
14	JESKメイクアップ検定対策	30分フルメイクの時間に入るように各パーツごとの時間配分を身につける。 筆記対策として過去問題を解いて知識を習得する。
15	定期試験	フルメイク(30分)メイクアップの正しいマナー・セッティングを習得する。 フルメイクを時間内(30分)に仕上げるができる。 各パーツを正しく仕上げることができる。

科目名 (英)	アシスタントプログラムⅡ Assistant programⅡ	年次	1	実務経験	担当	佐藤直雅
		授業形態	講義			
		時間数	30			
学科・コース	ヘアメイク科	単位	2	有	開講区分 曜日・時間	後期 1組2組(月3・4)3組4組(月1・2)
講師紹介	ヘアメイク事務所ビーサイド代表。数多くの現場経験を持ち、また多くのヘアメイクを輩出していた講師が、最新の現場で必要とされるアシスタント業務を具体的に説明する					
目的 科目概要	在学中からプロの現場でアシスタント業務ができるよう基礎をわかりやすレクチャーする					
到達目標	アシスタントワークの応用を理解できるようになる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■実技試験 □ 作品					
教科書	JESCテキスト 他 資料			事前事後 学習と その内容		
教材	メイク道具一式					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	アシスタントワーク	現場での動き(座学)
2	業界理解	音楽業界について(座学)
3	業界理解	TV業界について(座学)
4	業界理解	ドラマ・映画業界について(座学)
5	撮影①	作品撮影について(座学)
6	撮影②	撮影実習プレゼン(座学)
7	まとめ)	ヘアメイクの就職活動について(座学)
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名 (英)	ヘアメイクⅠ Hair & Make upⅠ	年次	1	実務経験	担当	大和田一樹
		授業形態	演習			
		時間数	60			
学科・専攻	ヘアメイク科	単位	4	有	開講区分	後期
					曜日・時間	1組(火1, 2限)2組(月1, 2限)3組(火3,4限)4組(月3, 4)
講師紹介	メイクアップアーティストとしてスチール、ショーのメイクアップ、またメイクアップディレクターとして化粧品の開発・プロデュース・メイクセミナーの講師、自らTV出演など化粧品とメイクアップに関する様々な業務を歴任してきました。ここではメイクアップに必要な専門的な理論と技術を習得する授業を行います。					
目的 科目概要	目的:ヘアメイクの中でも特にメイクアップデザインに関する専門的な理論と技術を学び、様々なメイクアップデザインを作り上げる。 科目概要:形・色彩・質感が持つイメージを学び、それを組み合わせることでオリジナリティのあるメイクアップデザインが表現できることを理解する。					
到達目標	形・色・質感を変化させ組み合わせることで様々なメイクアップデザインを作り上げることができる。 限られた時間内で様々なメイクアップを仕上げるができる。 様々なメイクアップ表現に必要な専門的な技術を習得することができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■実技試験 □ 作品 □提出課題					
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	メイクアップは細かいプロセスが多いので、毎回必ずノートを取って欲しいです。授業で使用したスポンジ・パフなどは毎回必ず洗浄しておいて下さい。	
教材	学校指定のメイク教材					
特記事項	7回目と14回目の授業時に課題の提出をしていただきます。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	フルメイク	フルメイクをしてみて今の段階での得意・不得意を知ることができる。
2	形にこだわる「直線メイク」	メイクアップで各パーツの直線的なラインの描き方を習得する。
3	形にこだわる「曲線メイク」	メイクアップで各パーツの曲線的なラインの描き方を習得する。
4	形にこだわる「上昇メイク」	メイクアップで各パーツの上昇的なラインの描き方を習得する。
5	形にこだわる「下降メイク」	メイクアップで各パーツの下降的なラインの描き方を習得する。
6	中間試験演習 フルメイク	形にこだわったフルメイクを時間内に仕上げるができる。 各パーツを正しく仕上げるができる。 中間試験の注意点を確認する。
7	中間試験 フルメイク	フルメイクを時間内に仕上げるができる。 各パーツを正しく仕上げるができる。【配点20点】
8	質感にこだわる「ツヤ質感メイク」	メイクアップにおけるツヤの質感を表現するテクニックを習得する。 メイクのイメージの違いに合わせて質感を選択することができる。
9	質感にこだわる「マット質感メイク」	メイクアップにおけるマットの質感を表現するテクニックを習得する。 メイクのイメージの違いに合わせて質感を選択することができる。
10	色彩にこだわる「多色グラデーションメイク」	多色を使って美しいグラデーションメイクをデザインする。
11	色彩にこだわる「多色ブロッキングメイク」	多色を使ったブロッキングメイクをデザインする。
12	素材にこだわる「異素材メイク」	様々な素材を使ってメイクアップデザインを作る。
13	オリジナリティにこだわる「デザインメイク」	今まで学んだデザイン表現を活かし、オリジナリティのあるメイクアップデザインをつくる。 デザイン画を描く。
14	定期試験の練習	デザイン画をもとにメイクアップを仕上げる。 時間内にフルメイクができるスピーディに仕上げる技術を習得する。 定期試験の注意事項を確認する。
15	定期試験	自らデザインしたメイクアップを美しく再現する。 時間内でフルメイクができる【配点50点】

科目名 (英)	メイクアップ総論Ⅱ General makeup theory Ⅱ	年次	1	実務経験	担当	CAA (高岸、原口、福田、秋本)
		授業形態	演習			
		時間数	60			
学科・専攻	ヘアメイク科	単位	4	有	開講区分 曜日・時間	後期 1組(木3、4)2組(木1、2)3組(水3、4)4組(水1,2)
講師紹介	CAA化粧品販売員検定協会、ヘアメイク事務所の代表を務め、コレクションやメイクショー など大手ブランドにて数多くの現場経験をしている講師。					
目的 科目概要	メイクアップアーティスト・ビューティーアドバイザーとして必要な技術力・知識力・販売力を身につける。 CAA全国化粧品販売員検定協会ブロンズ資格 を取得する。					
到達目標	CAA全国化粧品販売員検定協会のブロンズ資格を取得する。4シーズンのメイクアップの特徴を理解し習得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C(2.0)、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■実技試験 □ 作品					
教科書	CAA全国化粧品販売員検定協会公式テキスト			事前事後 学習と その内容	実技授業の場合、授業前にメイクセッティングをして下さい。授業後は全員で消毒と清掃を行います。ブラシ・パフは毎回洗浄して下さい。	
教材	メイク道具一式					
特記事項	課題にてテーマ別のメイクアップ画像提出					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	自己紹介・化粧品業界の動向とブランド分析	自己紹介・化粧品業界の動向を理解しブランド分析する。デザインシート書き方
2	化粧品学(基礎)1スキンケアアイテム	基礎化粧品の分類と特徴を理解し習得する。実技:ハイブランドブランドメイク(セルフ)
3	化粧品学(基礎)2メイクアップアイテム	仕上げ用化粧品の分類と特徴を理解し習得する。実技:ポイントメイク タッチアップ①
4	接客販売1&タッチアップ	化粧品販売員の役割・心構え・ホスピタリー・身だしなみ・パーソナルスペースなどを理解し習得する。実技:ポイントメイク タッチアップ②
5	接客販売2&タッチアップ	お客様の分類・集客・売上・販売行動・アプローチ・クロージングなどを理解し習得する。実技:ポイントメイク タッチアップ③
6	化粧品販売員検定ブロンズ中間試験対策	ブロンズ模擬テスト 実技:タッチアップ 色相グラデーション
7	化粧品販売員検定ブロンズ中間試験	化粧品販売員検定ブロンズ中間試験
8	4シーズンカラー スプリング	①色彩学 4シーズンカラー スプリングの特徴を理解しメイクで習得する。
9	4シーズンカラー サマー	②色彩学 4シーズンカラー サマーの特徴を理解しメイクで習得する。
10	4シーズンカラー オータム	③色彩学 4シーズンカラー オータムの特徴を理解しメイクで習得する。
11	4シーズンカラー ウインター	④色彩学 4シーズンカラー ウインターの特徴を理解しメイクで習得する。
12	ヒューマンカラーチェック	色相:ベースカラー・明度:ライト・ディープ・彩度:ビビット・ソフト を理解し診断する。
13	パーソナルカラーチェック	カウンセリングでベストカラーを導き出し、パーソナルカラーでフルメイクをする。
14	定期試験対策:4シーズンカラー	実技試験:パーソナルカラーで40分フルメイクの理解と対策
15	定期試験:4シーズンカラー	実技試験:パーソナルカラーで40分フルメイク

科目名 (英)	グローバルサービス Global Services	年次	1	実務経験	担当	NOVA
		授業形態	演習			
		時間数	30			
学科・専攻	ヘアメイク科	単位	2	有	開講区分 曜日・時間	後期 1組(水4限)2組(水1限)3組(水2限)4組(水3限)
講師紹介	語学教育の経験があり、様々な学校の学生様から企業様まで幅広い世代に語学を教えております。生徒の皆さんが語学や文化に興味を持ってくれるような授業を展開していきます。					
目的 科目概要	英語:海外モデルとのコミュニケーションをとる事ができ、メイクスキルに必要な英語での表現を習得する 韓国語:言語を通して異文化理解に努め、韓国語で挨拶や身の回りの言葉を話せるようになる					
到達目標						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	English for Beauticians			事前事後 学習と その内容	自宅で予習・復習を行うこと。	
教材	資料配布					
特記事項	教科書、ノート、筆記用具を持参し、配布されたプリントはファイルに取っておくこと。先生が板書した内容を丁寧にノートに取ること。積極的に授業に参加してください。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	【韓国語】 ハングルを理解しよう	ハングルを使って自分の名前を書けるようになる 身の回りのハングルを読めるようになる
2	【韓国語】 挨拶/自己紹介	自己紹介・仕事を紹介する表現を学ぶ 自己紹介が出来るようになる、自身の仕事について紹介出来るようになる
3	【韓国語】 日常会話で使えるフレーズ	普段使える簡単なフレーズを学ぶ 簡単な意思疎通をとれるようになる
4	【韓国語】 流行しているヘアメイク	韓国コスメや流行のヘアメイクについて学ぶ
5	【韓国語】 コミュニケーションをとろう	学んだフレーズを使ってコミュニケーションを取る 韓国人のお客様と簡単な会話ができる
6	【韓国語】復習	中間試験に向けて復習を行う
7	【韓国語】中間試験	中間試験
8	【英語】挨拶/自己紹介	自己紹介・仕事を紹介する表現を学ぶ 自己紹介が出来るようになる 自身の仕事について紹介出来るようになる
9	【英語】電話対応/飛び込み客	電話予約の表現を学ぶ 電話で予約を承ることが出来るようになる 飛び込み客への対応の表現を学ぶ 飛び込み客の対応が出来るようになる
10	【英語】お客様への質問	丁寧な質問の仕方を学ぶ お客様に失礼のない質問が出来るようになる
11	【英語】道案内	道案内の表現を学ぶ サロンまでの道案内が出来るようになる
12	【英語】会計	会計の表現を学ぶ 会計をすることが出来るようになる
13	【英語】施術中	会話を続ける方法を学ぶ お客様と雑談出来るようになる
14	【英語】復習	定期試験に向けて復習を行う
15	【英語】定期試験	定期試験

科目名 (英)	メイクアップⅡ Make Up Ⅱ	年次	1	実務経験	担当	廣井 愛唯・武井詩音
		授業形態	演習			
		時間数	60			
学科・コース	ヘアメイク科	単位	4	有	開講区分 曜日・時間	後期 1組(木1・2)2組(金3・4)3組(木3・4)4組(火1・2)
講師紹介	CAA化粧品販売員検定協会、ヘアメイク事務所の代表を務め、コレクションやメイクショー など大手ブランドにて数多くの現場経験をしている講師。					
目的 科目概要	目的:メイクアップデザインに関する専門的な理論と技術を学び、メイクアップイメージを作り上げる。科目概要:形・色彩・質感が持つイメージを学び、それを組み合わせることでメイクアップイメージを表現できることを理解する。					
到達目標	CAA全国化粧品販売員検定協会のブロンズ資格を取得する。4シーズンのメイクアップの特徴を理解し習得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C(2.0)、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■実技試験 □ 作品					
教科書	JESCメイクアップ基礎			事前事後 学習と その内容	授業前にメイクセッティングをして下さい。授業後は全員で消毒と清掃を行います。ブラシ・パフは毎回洗浄して下さい。	
教材	メイク道具一式					
特記事項	課題にてテーマ別のメイクアップ画像提出					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	質感① ツヤ肌	質感①:ツヤ肌の道具・仕上がりを理解しメイクを習得する。
2	質感② マット肌	質感②:マット肌の道具・仕上がりを理解しメイクを習得する。
3	質感③ パール・ラメ・グリッター・グロッキー	質感③パール・ラメ・グリッター・グロッキーの道具・仕上がりを理解しメイクを習得する。
4	形①直線	形①:直線的なメイクアップのデザインを理解しメイクを習得する。
5	形②曲線	形②:曲線的なメイクアップのデザインを理解しメイクを習得する。
6	中間試験対策 フルメイク(ツヤ肌・直線)	中間試験対策:ツヤ肌・直線的なメイクアップデザインを習得する。
7	中間試験 フルメイク(ツヤ肌・直線)	中間試験:ツヤ肌・直線的なメイクアップデザイン
8	Yベース・Bベース	イエローベース・ブルーベースを理解しメイクを習得する。
9	上昇・下降	上昇メイクと下降メイクの特徴とデザインを理解しメイクを習得する。
10	トーン:ライト・ディープ	ライトトーン・ディープトーンの特徴を理解しメイクを習得する。
11	イメージメイク①キュート	質感・形・トーンでキュートメイクを習得する。
12	イメージメイク②クール	質感・形・トーンでクールメイクを習得する。
13	イメージメイク③エレガント	質感・形・トーンでエレガントメイクを習得する。
14	期末試験対策:イメージメイク	実技試験:イメージメイクで40分フルメイクの対策
15	期末試験:イメージメイク	実技試験:イメージメイクで40分フルメイク

科目名 (英)	プロフェッショナルへの道Ⅱ Career DevelopmentⅡ	年次	1	実務経験	担当	太田 亜貴子/安中 松太郎
		授業形態	講義			
		時間数	30			
学科・専攻	ヘアメイク科	単位	2	有	開講区分 曜日・時間	前期 1組(水3)2組(水2)3組(水1)4組(水4)
講師紹介	社会人経験豊富な職員が、就職活動に向けてコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	業界および職種について理解を深め、自分の目指す将来像を明確にする。プロになるために自己管理が出来るようになる。					
到達目標	プロの職業人になるために必要な業界知識や流れを理解し、ヘアメイクの分野に合わせたビジョンを組み立てることができる 目指すヘアメイク分野の業界を知り、方向性を見出すことができる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	Hand-book of Life Style	事前事後 学習と その内容	●スケジュール確認は毎回実施をします(メモを取る習慣作り) ●体調管理の徹底 →担任授業ではスケジュールの確認だけでなく、就職、学校行事、連絡事項など重要事項をお伝えします。体調管理を徹底して欠席しないように気を付けましょう。			
教材	Hand book of Life style スケジュール管理のための手帳					
特記事項	必要事項は必ずメモをとる(メモを取る習慣を身に着けよう)					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	前期振り返りと後期の目標設定	前期定期試験、行事振り返りと、この学科の後期の流れを知る。
2	就職活動スケジュールとその準備	就職スケジュールを把握し、履歴書の重要性を理解する。 また面接試験のマナーを学び、自己紹介が出来るようになる。
3	自己紹介の練習①	自己紹介の練習を行い、他人から見た自分の姿を把握する。
4	自己紹介の練習②	自分の伝えたいことを整理して、相手に興味を持ってもらえるように話す練習をし、今後の就職活動に役立てる。
5	履歴書プロフィール欄の書き方① 撮影実習の準備	履歴書の免許・資格の書き方のポイントを理解する。 撮影実習の準備やスタジオの使い方を確認する。
6	履歴書の免許・資格の書き方② 履歴書添付の写真について	履歴書の免許・資格の書き方を理解し、求人票の見方を学ぶ。 履歴書用写真のポイントを知る。
7	中間試験	履歴書のプロフィール欄を完成させる。
8	メールの送り方、電話のかけ方	メールと電話のマナーを学び、印象の良い対応が出来るようになる。
9	業界研究①	自分の目指す業界を研究することで、進路の方向性を決める。
10	面接ロールプレイ	実際に面接を行い、自分の言葉でアピールできるようになる。
11	業界研究②	自分の目指す業界を研究することで、進路の方向性を決める。
12	自己分析し、自己PRを考える。	自分についての強み、弱みを考えて自己PRにつなげる。
13	履歴書を完成させる①	自己PRや志望動機を考えて履歴書を完成させる。
14	履歴書を完成させる②	自己PRや志望動機を考えて履歴書を完成させる。
15	定期試験	履歴書の完成を通して、就職活動の準備を整える。 1年間のまとめと2年生に向けての決意。

科目名 (英)	ヘアスタイリングⅡ Hair StylingⅡ	年次	1	実務経験	担当	小野寺 舞
		授業形態	演習			
		時間数	60			
学科・専攻	ヘアメイク科	単位	4	有	開講区分 曜日・時間	後期 1組(水1.2限)2組(水3.4限)3組(木1.2限)4組(3.4限)
講師紹介	ヘアメイクアーティストとして様々な現場を経験し、現在は事務所の代表を務めながら現役としても自身の技術を雑誌で紹介する等、活動しております。スタイルを作る方法は様々なので、皆さんそれぞれに合った学び方で技術を習得できるようお伝えします。					
目的 科目概要	ヘアアレンジを行う為の様々なヘアスタイルの種類を学び、応用の技術を習得する。スタイルの幅を広げデザイン力、想像力を身に付ける。					
到達目標	実用性～ファッション性の高いヘアスタイルを学び自分自身及びお客様までのトータルバランスをイメージ出来るようになる。ヘアアレンジの技術力、表現力を身に付ける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■実技試験 □ 作品 □提出課題					
教科書	プリント			事前事後 学習と その内容	実習後、次の授業までに復習し、より確実に身に付ける事が望ましい。	
教材	ヘア道具一式					
特記事項	実技がメインとなる授業の為、遅刻欠席は出来るだけせず、毎授業において手順等の内容は必ずメモを取り復習すること。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	ハーフアップスタイル・ダウンスタイル前期の復習	前期までの復習をし、ヘアテクニックの基礎を再確認してスタイルを仕上げる。
2	ホットカーラー・コテ、アップスタイルの違い	道具によるニュアンスの違いを認識し、技術習得に繋げる。
3	ローポニースタイル	前回までの技術を生かし、スタイルを作成する。
4	グループワーク・作り方を考える	写真のスタイルから作り方を考え、作成する。
5	グループワーク・素材を元に考える	素材からイメージをくみ取り、グループで1つの作品に仕上げる。表現力や想像力を身に付ける。
6	成人式向けヘアスタイル	和装ヘアスタイルの特徴や成人式での流行、髪飾りの付け方を学ぶ。
7	中間試験	7回目までの技術習得を確認する。フィードバックから今後の目標を立てる。
8	メンズセット	スタイリング剤を使用し、メンズセットを覚え、習得に繋げる。
9	相モデル実習	人頭での髪質の違い、毛量の違いを学び、前回までの技術を習得に繋げる。
10	和装スタイル	スタイルの幅を広げ、ジャンルや年齢を意識する事を学ぶ。
11	リボンを使ったヘアアレンジ	小物を使った際のアレンジ技術を学び、習得する。
12	スタイルを再現する	写真から作り方を想像し、自分のやり方で再現する事を学ぶ。
13	アップスタイル	基礎技術を生かし、アップスタイルを仕上げる。
14	試験対策	前回までの技術を復習し、苦手な箇所を確認する。定期試験に向け技術向上、スピードアップに繋げる。
15	定期試験	14回までの技術習得度を確認する。フィードバックから後期の目標を立てる。

科目名 (英)	ファッション総合Ⅰ (ブライダルフラワー) FashionⅠ	年次	1	実務経験	担当	天野 充恵
		授業形態	演習			
		時間数	30			
学科・専攻	ヘアメイク科	単位	2	有	開講区分	後期
					曜日・時間	1組(火4限)2組(火3限)3組(金2限)4組(金1限)
講師紹介	花業界に入って30年、ブライダルやイベント装飾、植物による空間デザインなど。生花、プリザーブドフラワー、アーティフィシャルフラワーなどを取り扱いフラワーデザイナーとして活動。ブライダルの専門学校の講師としてフラワー専攻の学生を指導。					
目的 科目概要	ブライダルの中での花の役割を知る					
到達目標	花の素材の違いや使用法、特性を理解し、ドレスや会場に合わせたコーディネートをイメージできるようになる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書	なし	事前事後 学習と その内容	メモを取り、理解する			
教材	プリント					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	花の素材、季節のお花、花言葉について	花の素材の違いと特徴、用途、季節に出回るお花、ブライダルで使いやすい花言葉について理解する
2	ブライダル装花について	ブライダルの装飾として使われるお花にはどんな種類があるのか理解する
3	ブライダルでの花を使った演出について	ブライダルの中で行われるいろいろな演出、由来について理解する
4	テイストイメージについて	テイストイメージに合った色合わせについて理解する
5	テイストイメージについて(コラージュ作り)	テーマに合わせてテイストイメージを実際にコラージュしてみる
6	テイストイメージについて(発表)	前回制作したものをそれぞれ発表
7	中間試験(筆記)	これまで学んだこと
8	試験の振り返り、ヘアードの種類とアイテムについて	花を使ったヘアードの種類と髪型との相性、その他のアイテムについて理解する
9	生花の水揚げ法、ブートニア作り(生花でワーク)	生花の種類によって違う水揚げ法を知る。生花を使ってブートニア作り
10	ウェディングブーケの種類、ドレスとの相性について	ウェディングブーケの種類とドレスとの相性について理解する
11	ラウンドブーケ作り(造花でワーク)	造花でラウンドブーケを作る
12	ヘアード・ブートニア作り(造花でワーク)	前回制作したブーケに合わせてブートニア、ヘアードを作る
13	ブライダルコーディネートについて	自分が理想とするコーディネートについて考える
14	学んだことの振り返りと理想のブライダルコーディネートについて発表	学んだことを振り返り、前回考えた理想のコーディネートについて発表
15	定期試験	これまで学んだことのまとめ

科目名 (英)	ファッション総合Ⅰ (ブライダルドレス) FashionⅠ	年次	1年	実務経験	担当	坂田 依智子
		授業形態	演習			
		時間数	30	有	開講区分	後期
学科・専攻	ヘアメイク科	単位	2		曜日・時間	1組(火3限)2組(火4限)3組(金1限)4組(金2限)
講師紹介	ドレススタイリストとして15年間、ドレスショップや式場、ホテルの現場で婚礼衣装業務、また責任者として部下の育成にも携わってきました。その現場での経験を伝えながら、知識やスキルの指導を行います。ブライダル専門学校や美容専門学校にて、講師歴8年になります。					
目的 科目概要	目的:フォーマルウェア、ブライダルについての知識を通して、ヘアメイクアーティストとしての幅広いトータルコーディネート力を身に付ける。 概要:フォーマルウェアの基礎知識、ブライダルに関するマナー、ドレス・メンズフォーマルの着付けのスキルを学ぶ。					
到達目標	フォーマルウェアの基礎知識を習得し、ドレス・メンズフォーマルの着付けからヘアメイクまでトータルコーディネートができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書				事前事後 学習と その内容	毎回の授業では、メモをとりながら臨んでください。わからない箇所はそのままにせず、毎回その場で質問をして解決してください。	
教材	衣裳、小物類 等					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	結婚とは	通過儀礼、現代の結婚・婚姻の定義を学ぶ。
2	結婚式とは	結婚に関する儀式、慣習、マナーを学ぶ。
3	ドレスの知識	ドレスの歴史、ドレスの種類・ディテール・サイズを学ぶ。
4	ドレスの扱い方・フィッティング	ドレスの扱い方を学ぶ。ドレスのフィッティングテクニックを理解し、実践する。
5	ドレスのフィッティング練習	「素早く、綺麗に」を目標にドレスのフィッティング練習をする。
6	ドレスのフィッティング練習	中間試験に向けて、試験で使用するドレスを決め、相モデルでドレスのフィッティング練習。
7	中間試験	実技試験:ドレスのフィッティング
8	中間試験の振り返り フォーマルウェアの知識	フィードバック。 衣服の概念を理解し、フォーマルウェアの格式、装いの知識を学ぶ。
9	メンズフォーマルの知識	メンズフォーマルの種類・ディテール・サイズを学ぶ。
10	メンズフォーマルのフィッティング	メンズフォーマルの扱い方、フィッティングテクニックを学ぶ。
11	ドレスの知識	第3回の授業内容の復習。ドレスの小物について学ぶ。
12	ドレスのトータルコーディネート提案	ドレスのトータルコーディネートのテーマを決め、コンセプトシートを作成する。
13	ドレスのトータルコーディネート実践	前回作成したコンセプトシートをもとに、ドレスのトータルコーディネートを実践する。
14	定期試験対策	試験に向けて、学んだ知識の復習をする。
15	定期試験	筆記試験

科目名 (英)	スチールヘアメイクⅠ Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	担当	福島 裕司
		授業形態	講義 演習			
		時間数	60			
学科・専攻	ヘアメイク科	単位	4	有	開講区分 曜日・時間	後期 月曜1・2・3・4限 火曜1・2・3・4限
講師紹介	美容業界で23年以上関わってきました。CMや舞台、雑誌のヘアメイクなど、お客様のキレイの基準向上に取り組んでいる。セミナーや教育など様々な現場で美の提供をしながら活動している教員が、美容のスペシャリストを育成する為、美容知識、技術、経験の基礎と応用を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	撮影用のヘアメイクが出来るようになる為に現場の流れを理解し、基本技術を習得する。 一般的なヘアメイクと撮影用のヘアメイクの違いを学び、ナチュラルビューティ～ファッション系のヘアメイクを現場で対応できるようになる。 その為の撮影用ヘアメイクの技術力、表現力を身に付ける。					
到達目標	テーマに合わせたオリジナルヘアメイクデザインを考える事ができる。(ビューティ～ファッション～アート) 企画書から作成して撮影まで行うことが出来るようになる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 ■ 作品					
教科書				事前事後 学習と その内容	講義、演習がメインとなる授業となる為遅刻欠席は出来るだけせず、復習をしっかりと授業に臨んで欲しい。 美容業界は流行の流れが速い為、常に雑誌やネットで情報を調べて予習しておく事。演習後は技術の復習をし、より確実に身に着ける事が望ましい。	
教材						
特記事項	講義及び掲示物について、著作権のある資料も使うことがある為 写真撮影及び録音録画を禁止する					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	美容業界について ヘアテクニック確認	自己紹介 授業の流れ説明 美容業界説明 ヘアテクニックの確認
2	デザインヘアテクニック①	ファッション系ヘアスタイルを学び、実習することができる
3	デザインヘアテクニック②	アレンジ系ヘアスタイルを学び、実習することができる
4	デザインメイクアップ①	ファッション系メイクデザインを学び、実習することができる
5	デザインメイクアップ②	ファッション系メイクデザインを学び、実習することができる
6	撮影について 企画書の説明	撮影と企画書の作り方を学び、企画書を作成することができる グループ決め
7	中間テスト 作品撮影	グループで作品撮影を行う
8	デザインヘアテクニック③	ファッション系ヘアスタイルを学び、実習することができる
9	デザインヘアテクニック④	ファッション系ヘアスタイルを学び、実習することができる
10	デザインメイクアップ③	ファッション系メイクデザインを学び、実習することができる
11	デザインメイクアップ④	アート系メイクデザインを学び、実習することができる
12	デザインメイクアップ⑤	アート系メイクデザインを学び、実習することができる
13	撮影について 企画書作成	撮影について学び、オリジナル作品を作成することができる
14	期末テスト 撮影	作品撮影 モデルは各自持参
15	まとめ・振り返り ヘアORメイク実習	作品鑑賞 前期の振り返り ヘアORメイク実習